

# 教育福祉常任委員会会議記録

1. 期 日 令和4年8月23日(火) 開会 15時30分  
閉会 16時15分
2. 場 所 議事堂
3. 付議案件 閉会中の継続調査(所管事務調査)について  
「二宮町の資源を生かした子どもの育成環境」
4. 出席者 根岸委員長、羽根副委員長、小笠原委員、前田委員、一石委員、善波議長  
傍聴議員 0名  
一般傍聴者 0名  
議会事務局 3名 議会事務局長、庶務課長、副主任

---

## 閉会中の継続調査(所管事務調査)について 「二宮町の資源を生かした子どもの育成環境」

委員長 　　ただいまより、教育福祉常任委員会を開催する。提言の最終の意見調整ということで時間を設けたいと思っている。次第にあるように意見最終調整、資料の巻末に皆さんからのメッセージをつけてもよいのではないかと、個人的に思っているのでご意見をいただく。皆様に配っている提言書は冊子になっている。体裁がきちんとなっていないが、ほぼこのような形におさめたいと思うが、一枚目が提言書である。前回の調査研究会でやり取りしたことを盛り込んでいる。教育福祉常任委員会の提言書案「二宮町の資源を生かした子どもの育成環境について」テーマ副題は「不登校あるいは不登校の前段階における子どもたちの居場所づくり」である。課題提起として全国的に不登校の児童生徒数が増え続ける中、町の教育委員会で把握している不登校の数も年々増え続け、令和3年度小中学校で不登校として公表されている数は5校で56名である。それに加えて学校に行くことができても教室に入ることができない、あるいは部活だけは登校できる、不定期の登校、など不登校に近い状態の児童生徒が数多く出てきている。既に文科省は令和元年に詳細な対応策を通知、さらに令和4年6月には同庁調査研究協力者会議から校内の居場所、多様な教育機会の確保、不登校特例校、フリースクール、民間団体、福祉との連携、ICTの活用等の具体策とすべての児童生徒の中に秘められた大きな可能性に資する不断の努力を求める報告を受け、2度目の通知が出されたところである。本町が継続して独自予算で支援教育補助員を配置し続けてきたことは評価できる。一方、スクールソーシャルワーカーとスクールカウンセラーが近隣自治体の中では比較的多く配置されているものの、現状では子どもたちのケアに充分丁寧に入れる程度ではない。また、不登校児童生徒のために町教育委員会のやまびこ教室等がある他、民間支援がいくつかあるが、支援に繋がるケースは限られており、公立学校として

対応できる手立てを増やすことが求められている。本委員会では義務教育の期間における、子どもたちが教育を受ける権利の確保に向け、速やかに子どもたちに多様な学びの場を提供するべく、以下の提言をまとめた。提言事項だが令和3年4月から令和4年8月まで調査研究を進め、そこから得た結論を提言事項として次にまとめる。なお、調査研究の活動報告は別に添付する。以下スクールソーシャルワーカーはSSW、スクールカウンセラーはSCと称する。①支援教育補助員を減員することなく、SSW、SCの増員、就業時間を増やすこと。SCについては、小学校にも常駐する日を設けること。②学校内のフリースペースの設置に向け教育委員会と学校で協議を進めること。フリースペースとは教室以外の校内で児童生徒が一時的に休憩できる場所。③教育支援室(やまびこ)は保護者に更なる周知を図り通学しやすいような居場所づくりを目指すこと。④学校、やまびこ教室、民間フリースクールの三者連携を強化し、子どもたちが教育を受ける権利を守ること。⑤校内フリースクールの設置を検討すること。校内フリースクールとは教室以外の校内の場所で、教員による個別最適な支援や授業を受けることができる児童生徒の居場所である。

委員長           この提言案でよろしいか。

前田               課題提起のところで「部活だけは」になっているので「部活動だけは」のように「動」を入れてほしい。

委員長           他に意見がなければ9月議会でも読み上げたいと思うがよろしいか。

一石               提言事項のまた不登校児童生徒のために町教育委員かやまびこ教室「等」と書いてあるが、等は何か。なぜ等と入れたのか。

前田               各学校内にフリースペースではないが教室を設け、教室に行けない生徒がいる居場所として設置している場所があるので、そこで「等」とした。

委員長           他にないようなのでこれで提言を確定する。議論いただきたい部分が2か所ある。資料1の④で一色小学校内における仮称フリースペース作りである。今回新しい所になる。意見交換しないまま案を出した。考察を読み上げる。学校内では教職員が必ずついていなければ責任を負えないという学校側のルールがあり、その人材確保が難しい。コミュニティ・スクールも含めた人的支援についての検証が必要である。しかしながら、一色小学校に生まれた子どもたちに寄り添う機運を生かし、制度を作るのも行政の重要な役割である。この赤いところを補足でいただいている。全体的にどうか。

小笠原           付け足すのがよいと思うが、この文章には点が一つも付いていない。この一色小学校に生まれた子どもたちに寄り添う機運を生かし、「」制度を作るのも行政の重要な役割にしたらどうか。

委員長 点を付けるのはよいと思う。先ほど副委員長とも話していたが一色小学校に発生したという言い方はどうか。

前田 生まれたという文章について質問するが、一色小学校に生まれたということは一色小学校にはこのようなスペースができたということか。

一石 生まれたのは、子どもたちに寄り添う機運である。作ろうという意欲のある、社会資源があるということである。

前田 機運が沸き上がってきたわけだが、生まれているわけではないので少し表現がおかしいのではないかと思う。寄り添う機運を生かしでよいと思うが。

委員長 一色小学校の子どもたちに寄り添う機運を生かし。

一石 他の文章を切ろうとしたのかもしれないので、コミュニティ・スクールも含めた人的支援も含めて検証が必要である。

委員長 もう一度読む。学校内では教職員が必ずついていなければ責任を負えないという学校側のルールがあり、その人材確保が難しい。コミュニティ・スクールも含めた人的支援についての検証が必要である。一色小学校の子どもたちに寄り添う機運を生かし、制度を作るのも行政の重要な役割であるで大丈夫か。

(「はい」との声あり)

委員長 ではそのようにする。

資料2③赤字の方がよい文章だと思うので読み上げる。二宮独自の子どもたちの第三の居場所づくりがシンボル事業の中で新たに始まった。夏休みにも取り組みがあった。町教育委員会は民間のフリースクール同様にこのような居場所の情報も保護者と共有しながら、子どもたちの状況に寄り添った支援の創出の取り組みも生かす研究をするべきだ。

一石 三行目、子どもたちの状況に寄り添った支援の研究をするべきにした方がよいかもしれない。長々と書いてあるので。

小笠原 研究をするべきではなく、研究をのぞむとか研究を進めてほしいとか、そういう日本語の方がよいと思う。

前田 よいと思う。

委員長 再度読む。二宮独自の子どもたちの居場所づくりがシンボル事業の中で新たに

始まった。

羽根 シンボル事業は入れなくてもよいのではないかと。居場所づくりが始まったということでもよろしいのかと思う。夏休みにも取り組みがあったが少し分からないので取ってもよいのかと。入れるのであればもう少し何か付け加えないと何の取組だか分かりづらい。

15時50分

《 暫時休憩 》

16時20分

委員長 休憩を解いて再開する。休憩中に意見交換をし、資料②の3居場所づくりのスペースについての考察の文章を練り直した。読み上げる。子どもたちに寄り添う二宮独自の居場所づくりが始まり、夏休みにも取り組みがあった。町教育委員会は民間フリースクール同様にこのような居場所の情報を保護者と共有しながら、子どもたちの状況に寄り添った支援の研究を進めてほしい。寄り添うが2か所重なるが。

小笠原 休憩中に、一石委員がおっしゃったように寄り添うよりも配慮がよい。最後のところは配慮にしたい。子どもたちの状況に配慮した支援の研究を進めてほしい。

委員長 今、小笠原委員から指摘があった箇所は子どもたちの状況に配慮した支援の研究を進めてほしいということでもよろしいか。

(「はい」との声あり)

委員長 ご協力ありがとうございました。二か所についての文章を訂正して、新たに作り直したものはメールで配信する。次第の2だが個人的にここまで様々な思いやご意見、180度違う意見を持ち、やり取りをしながら皆さんの力でまとめ上げてもらった。巻末に名前を付け、皆さんから200から300文字ぐらいまでの文章を付けたらどうかと思ったがいかがか。

小笠原 心情的な言葉を追うだけではなく、理念というか要望することは重要だと思うが一人ひとりはいらないと思う。委員会を出すものなので個人名は関係ない。委員会として集約して付けていただきたい。付けることには賛成だが各個人の名前を出して、各個人が考えた文章ではなく町に対して何とかやってほしいというところがあるので、そのような思いが強く伝わるような理念的な言葉を発することは賛成である。

委員長 課題提起でまとめたのでよいかという気がする。

小笠原 課題提起というのはこういうものが町に対して書いてある。思いだけでは物事は

変わらないのでしっかり予算付けについて優先順位を上げ、私たちは今回提言をするが、しっかり読み込むとともに、そこに必ず予算を付けるように強く要望したいとか、そういう短い文章でもよいと思う。それはそれ、これはこれとしてほしくなくて真剣に子どもたちのためにやってほしい。そういう思いを伝える文章を付け加えるのはいかがか。委員会は議員活動とは違うので個人の文章を入れるというのはそぐわないと思う。

委員長 予算を付けてほしいということを経済委員会とやり取りをしてきた。

一石 私もそう思う。予算を付けるということをはっきり言うのはとてもよいと思った。個人個人のは個人の議員活動で研究活動を含めて、個人で出していけばよいと思う。かなり行政とやり取りして行政に配慮した文言になっているが、やはり予算を付けることをしっかり議会として言うのが大事なことだと思う。優先順位をとにかく上げるということを言いたいと思う。教育がこの町の大事な根幹だということを使うべきかと思う。この提言書が少し弱いかなと思った。

委員長 提言書の1枚目の最後のあたりに2行ぐらい少し付けます。

小笠原 私たちは今回テーマを絞ってやっている。それはそれとして出すが根本には町の子どもたちをしっかりと育てていくための強い思いがあり、そこを1行でも2行でも足していただきたい。

一石 提言事項の前の課題提起の「本委員会では義務教育の期間における」の前に、二宮町の教育の施策の優先順位をとにかく上げて、予算を付けるべきというようなことを入れて以下の提言をまとめたと言う。予算がつかないこともあげている。提言事項の最後に入れるのがよい。今のことをすっきりと書く。

小笠原 このメンバーでやるのは最後なので4年の終わりがあるとよいと思う。

委員長 一石委員、今の文章をざっくりと言ってほしい。

一石 二宮町の施策の教育の優先順位を上げて予算をなど。一日とか少し時間をいただきたい。

委員長 そこをやり取りしながら詰めた文章を書き足したいと思う。正副委員長でまた皆様に入れたものをメールで出すので読んだ上で返答をいただきたい。

前田 一つ確認よろしいか。今の文章は⑤の下に入れるということか。

委員長 ⑥ではなく。

- 前田                   私としては課題提起のところの下から二行目の「権利の確保に向け、教育予算を一段増額し」とこちらに入れた方がよろしいのではないかと思います。予算を増やし、しっかりとした予算を付けて速やかに子どもたちに多様な学びの場を提供するべく思うが。
- 一石                   私も先ほど言ったが、どちらがよいか 2 案で検討したらどうか。課題提起の最後に入れるか、提言事項の最後に入れるかを皆さんに諮るということではいかがか。
- 小笠原                こういう課題があるということと、予算を付けろと言うのは違う。提言事項の最後に強い口調で①②③④⑤⑥ではなく提言で資源のない小さな二宮町だけど、そこで育つ子どもたちは他の市町村で育っている子どもたちよりも、いろいろなものが与えられず育つことは耐え難いので強く予算を付けることを最後に別項目でやっていただきたいと思っている。
- 一石                   提言事項を提言としてきちんと書き、その後に調査研究から得た結論を、提言事項を次にまとめるとして「提言として、具体については以下にまとめた」みたいにする。
- 委員長               このページ自体が提言である。
- 一石                   じゃあ提言事項はやはり入れるべきである。
- 羽根                   皆さんの考えをしっかりと分かりやすくするには、私は提言事項の後に追加して二行ぐらい入れた方がよいのではないかと思います。たとえば二宮町の施策の中で教育の優先順位を上げ、以上の提言事項の実現に向け予算の確保することを強く望むとか、そういう内容ではいかがか。
- 委員長               羽根委員もう一度お願いします。
- 羽根                   提言事項が 5 番で終わっているのですが、その後ろにたとえば二宮町の施策のうちの教育の優先順位を上げて以上の提言事項の予算を、確実に確保することを強く望むという内容ではいかがか。
- 一石                   今の発言を羽根さんの方でまとめていただき、皆の意見を聞いて結論を出していただけたらどうか。
- 委員長               そうしたいと思う。提言事項⑤の最後に二宮町の施策の教育の優先順位を上げて予算を付けるというようなことを文章化して送るので、後日確認をお願いします。何か他に何かあるか。

(「なし」との声あり)

委員長

他にないようなので教育福祉常任委員会を閉会する。

閉会 16 時 15 分